

# 福島民友に掲載されました！



日本では毎年、透析患者が増えており、約32万人の患者を抱える「透析大国」となっています。このような背景から透析予防を目的に、白河市でも2012年の特定健診から従来の尿検査に加え、腎機能障害の指標である推定糸球体濾過量（eGFR）が健診項目に追加されました。eGFRとは腎臓がどれくらい老廃物を尿に排泄する機能があるかを示しており、60未満で腎機能低下と判断されます。

県南部では特定健診者数4462人に対して慢性腎臓病

## ■ 透析予防 ①

### 特定健診で腎機能チェック



和久昌幸医師

と特定された方は995人（22・3％）で、慢性腎臓病患者の全国平均12％を大きく上回っています。尿検査単独だと尿たんぱく陽性者が57例（1・3％）であったことから、eGFRが追加されたことにより多くの慢性腎臓病を拾い上げることが可能になりました。しかし対象者が多く、全ての患者を個別に対応するのは困難です。

一般的にeGFR45未満だと正常者に比べて2倍以上の早さで腎機能低下が進行することが知られており、その対象者は85人（1・9％）まで絞り込めます。このことから白河市と連携してeGFR60未満の方を対象に、慢性腎臓病重症化予防のための指導

や、医療機関の受診を促すことを目的にした教育講演を開始。同時に重症化の予想される高度たんぱく尿やeGFR45未満の方を対象に、保健師との連携も開始しました。

これにより慢性腎臓病の早期発見と透析水際での治療を、明確に分けて行うことが可能となりました。この活動は「慢性腎臓病予防教室」と名付け、6年間継続しています。自分の腎臓機能がどの程度なのかを知るために、ぜひ特定健診を受けてみてください。

（県医師会員 白河病院内科部長）

次回掲載1月22日

協力・県医師会